

滋賀版に掲載された。

(第3種郵便物認可)

中

「未

幕末疫病禍の救世主に学ぶ

蘭方医・賀来の企画展

日野

江戸時代末期の日野町で九一の功績をたどる企画展「幕末・維新期の疫病と

天然痘の撲滅に尽力した蘭



初めて公開されている賀来のメモ書きや肖像画
|| 日野町西大路の近江日野商人ふるさと館旧山
中正吉邸で



長浜市長、

「重なる力がある。継承する力がある。なくなれば祭でなくなる」と指摘。「受け継ぐ者として創意工夫と勇気が求められている」と呼び掛けた。

日野」が、同町西大路の近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」で開かれている。二十五日まで。

賀来は豊前国佐田（現・大分県宇佐市）出身。三八

年に京都で医学を習得し、四一年には開業していたとみられる。町内で初めて種痘を実施し、領主の水口藩主から高い評価を受け、「春齋」の名で文化人としても名をはせた。

企画展は、町内で新たに製薬や治療の方法を書き残したメモ書き「集方録」や、晩年の肖像画などの遺品が見つかり、未裔から提供を受けたことから、初めて公開することになった

た。こうした遺品に加え、江戸後期から明治初期にかけて流行したはしかやコレラといった疫病の当時の対処法を紹介するパネルなど五十一点を展示。賀来本人の種痘医の免許状や、接種済みの証明書、直筆の墨絵もある。疫病退散を願う町の習俗も解説している。

同館の岡井健司館長は「賀来さんは町民にとって救世主のような存在だったと思う。コロナ禍の今こそ、功績を知ってほしい」と来場を呼び掛けている。

十八日午後二時からにはギヤラリートークがある。入館料は高校生以上三百円、小中学生百二十円で、町在住者は無料。月、火曜休館。◎同館 || 0748 (52) 0008

(斎藤航輝)